

花巻市アプローチカリキュラム・検証事例

いいね！一緒にやってみよう！

◀元気な子どもも▶②戸外で十分に体を動かして遊び、自分なりの目標をもって繰り返し取り組む。
 ◎友達と力を合わせたり、頑張りを認め合ったりしながら、繰り返し取り組む楽しさを味わう。
 ◀幼稚園教育要領 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿▶
 ◎協同性…友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
 ~花巻市立土沢幼稚園~

☆ 視点にかかわる背景(9月~10月) ☆

・運動会に向けてグループの仲間と走る順番を決めたり遊戯の踊り方を考えたりするなど考えやアイデアを出し合う場面が少しずつ増えてきている中で、自分の思いだけで決めていこうとしたり友達の姿に関心を示さなかったりする子がいる。そのような状況でもまわりの子どもたちは特に何も言わなかったり言われたとおりに動いたりしているところが見られる。

☆ 具体的事例 ☆

子どもの姿・子ども同士のかかわり	教師の援助・視点
<p>Aが拾ってきた木の実を見て「ほら、カップに入ると音が鳴るよ」とBが鳴らして見せた。「いい音だね。」 「どこから拾ってきたの？」と興味津々な子どもたち。園の裏側へ木の実を拾いに行き、木の実を使って遊戯で使うリベットボタンをつくることにみんなで決める。出来上がると自分でつくったボタンということで踊りたい気持ちも高まり、腕を高く上げたり大きく回したりしながら楽しそうに踊る。翌日から「今日も“わらうた”やろう!」「踊りたい!」と声を掛け合って自分たちで踊り始めるようになった。</p>	
<p>・ボタンを持って踊り始めて二日目。振り付けも覚え、子どもたちはみんなはりきって踊っている。</p>	<p>・一人一人から自信が感じられるので、体の動きや仲間と合わせて動こうとしているか気づけるように、前列と後列に分かれて互いの踊りを見合うことにする。</p>
<p>・後列グループの踊りを見て、前列グループのC「あれ、なんかバラバラで踊っているところがある。」D「もしかして“ソイヤ”って声を出すと揃うんじゃない?」CとDの言葉を聞いて後列グループは声を出して踊ってみる。D「やっぱり声を出すと合うね!」E「動きがぴったりだったよ!」と友達のよさを認める言葉が聞かれた。</p>	<p>・T「そうか!ソイヤって言うと動きがぴったり揃うんだ!いいところに気づいたね!」と仲間と合わせて動くためのやり方に気づいたことを認める。</p>
<p>・翌日、①グループの3人が誘い合って踊り始める。Dが口ずさみながら先に立って動き始め、D「ねえ、こういうのはどう?」と中央に集まったり広がったりする動きをする。BとFは頷きながらDに合わせて一緒に動く。 ・Dは「いいね!そうしよう!」と言って「次は回るの!」「そして、こう!」等と友達に言いながら先に立って踊る。</p>	<p>・いつも自分一人で自由に踊ろうとするDが、友達に声を掛けながら一緒に踊ろうとしていたので、「①グループのみんなで、どんなふうに踊ろうか考えて考えるのも楽しそうだね。」と仲間と振り付けを考えて決めていけるように声をかけてみる。 ・3人で動く姿を見守りながらDちゃんのアイデアを認めていった。</p>
<p>・次の日も①グループはDだけのアイデアで踊りが進んでいき始める。</p>	<p>・Dは自分の思う通りに進めたいところがあるが、友達の声にも耳を傾けられるように「Dちゃんの踊り方はとても素敵だね。ほかにどんな動き方があるか見てみたいな。」と、まわりの子も自分なりのアイデアを発信できるようなきっかけをつくる。 ・「スキップをしながら腕を回すのもいいね!BちゃんとDちゃんのアイデアだね!」と友達と一緒に考えて決めた喜びに共感する。</p>
<p>・Bが「あのさ、こうやって回すのはどう?」と腕を回して見せると「それいいと思う!こんな感じ?」とDは腕を回しながらスキップしてみせる。F「楽しい!」D「いいね!」と言いながら3人で一緒に笑顔で動き出す。</p>	<p>・互いのグループの動きのアイデアや隊形の変化に気づき、認め合ったり取り入れてみたくなったりするように、2グループで見合う場をつくる。</p>
<p>・楽しそうな声を聞いて「①グループってどんな風に踊っているの?」と②グループのEが興味を示したので、踊りの見せ合いっこをすることに。見せ合いっこをする中で「回るところがいいね!」「くっついて離れるところがかっこいい!」と互いのグループの踊りを見て感じたことを伝え合う姿も見られるようになった。</p>	

☆ 接続期の指導場面における配慮事項 ☆

・共通の目的があることで考えやアイデアを出し合い自分たちで動きだそうとする姿が見られることから、子どもたちが何を楽しんでいるのか何を求めているのかを捉えて素材や道具、場の環境を用意していくことが必要である。意欲を引き出し遊びが継続していくことにつながる。
 ・特定の子が思いを主張しているだけに見える場面でも、子どもたちにとっては刺激であったり取り入れたい内容であったりすることもある。教師は子どもの会話やつぶやきから子ども同士の関係を捉え、話したくなるような状況をつくっていくことで、互いに考えを伝え合い、相談し合いながら取り入れていくことにつながる。